

中国における高齢者用施設の研究

芸術研究科 造形表現専攻
デザイン領域 博士前期課程
2024年3月修了

趙紀程

主査 栗田融 副査 安齋哲 三枝孝司

研究背景

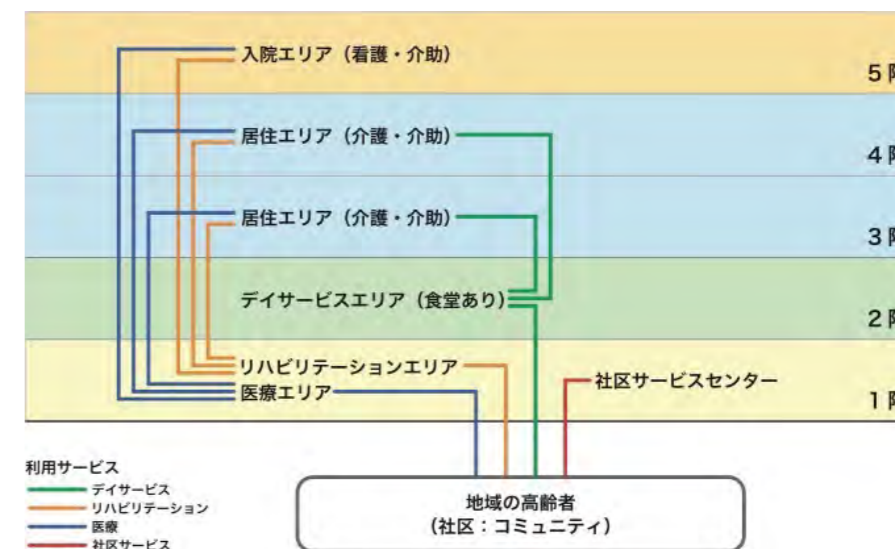
現代の中国は、少子化とともに高齢化も急速に進み、2021年に高齢化率(65歳以上の人口比率)が14.2%となり「高齢化社会」から「高齢社会」に移行した。核家族の増加に伴い、家族の観念も変化するとともに、経済的に支援しきれないといった現実的な課題も抱え、公的な社会保障制度の整備が求められている。一方、1994年に「高齢社会」に入り、2007年には「超高齢社会」を迎えた日本では、1997年に介護保険法を制定し、その後の改革も図りながら、高齢者対策を行っている。そこで、高齢化が先に進んだ日本の高齢化社会対策を参考に、中国の高齢者支援の新たなあり方と高齢者施設を提案することはできないかと考えた。

研究目的

本研究では、研究背景で着目した社会的な課題に対応する「中国における高齢者用施設」を検討し提案することを目的とした。

研究概要

「日本と中国における高齢者対策の調査・分析・考察」と「日本と中国における高齢者用施設の調査・分析・考察」から「中国における高齢者用施設に求められる条件の設定」をしたうえで、「中国における高齢者用施設を提案する計画地の設定」を行い、「中国における高齢者用施設の提案」をした。居住エリアの中心に位置する公園の一部を計画地とし、高齢者用社区サービスセンター(在宅、通所、施設サービスの相談、手続き)、高齢者用医療施設、高齢者用リハビリテーション施設、高齢者用デイサービス施設、高齢者用居住施設(介護、支援)、高齢者用看護・介護施設(入院、短期入所)を対象者が利用しやすいフロアに配置し、多機能複合施設として計画した。



成果・まとめ

本研究では、日本の高齢者支援を参考にしながらも、医療と養老を連携させる「医養結合」と養老サービス体系のより処とされる「社区福祉」といった政策方針を基本に、中国独自の高齢者用施設を計画した。また、健康に対する意識が高く運動習慣が日常生活に根付いている中国の高齢者の多くが過ごす公園の一角を計画地とすることで、施設の活動メニューに公園利用も考慮した。介護保険制度の整備等が前提となるが、これまで支援の対象からはずれていた要支援・要介護や中間層高齢者をも対象とする新たな高齢者支援のあり方が提案できたと考えている。



指導教員コメント

本研究は、自国の高齢者支援に不安を感じている中国からの留学生が、高齢化が先に進む日本の高齢者支援を参考に、これからの中国における高齢者支援のあり方を想定した一つの提案である。提案のポイントは、家族扶養から社会扶養に移行する日中の共通点を確認しながらも、中国独自の文化性や価値観を踏まえ、多機能を複合した施設として計画しているところである。施設内での支援にとどまらず、地域コミュニティをベースとした在宅支援の機能も複合した点にある。